

宮城県では令和3年度に市町村、土地改良区、農業者組織が参画する「宮城県田んぼダム実証コンソーシアム」（事務局：宮城県、大崎市）を設立し、田んぼダムについての理解醸成と県内全域への普及・促進を図る取組を行っています。



平成27年9月 関東・東北豪雨（大崎市／多田川）



令和4年7月 大雨災害（大崎市／名蓋川）

施策7(基本項目3関連) 農業・農村の強靱化による地域防災力の強化

- ① 農村の防災機能の充実
- ② 田んぼダム等農村地域の有する洪水調節機能の効果的な発揮
- ③ 農業水利施設等のストックマネジメントの推進
- ④ 農村地域の生活環境の維持

➡ 目標取組面積を具体化：
令和12年度までに農地整備実施地区で1,300ha

田んぼダムの取組

事業完了 **事業継続中** **事業新規**

1スリット落水口枓 (従来品) 設置済み

2スリット落水口枓 R4、11月～

県内統一

取組なし

標準

取組あり

標準

【機能一体型】

水位調整板 (木製) を加工

【機能分離型】

ロート型堰板

開発

木製立板式堰板

- 農家自ら加工が可能な木製で、安価である。
- 従来の1スリット落水口枓で、田んぼダムの機能分離が可能。
- ゴミ詰まりしにくい。
- 木製に比べ耐久性に優れるが、高価である。
- 県と企業の共同開発。
- 2スリットにも装備可能。
- 県内の落水口枓を2スリットのみと統一し、田んぼダムを機能分離。
- 安価な木製堰板を標準で装備。
- 2スリットの場合、様々な堰板が設置可能で、事業完了後でも農家が容易に取り替わることが可能。

- ②農地整備事業では2スリット落水口桧（田んぼダム対応）を標準仕様に

事業内容：田んぼダムの効果検証、堰板配布、普及活動に係る経費等

主な活動内容：

田んぼダムの普及・啓発活動（シンポジウム開催、ワーキンググループ等）、
効果検証、会員間の情報共有



令和3年6月 コンソーシアム設立総会

令和7年度時点の会員数
コンソーシアム加入率：67/82（81%）
市 町 村：28/35（80%）
土地改良区：39/47（82%）

(1) 普及啓発活動

① 田んぼダムシンポジウム開催による啓発

田んぼダムの理解促進、普及拡大を図るため、毎年シンポジウムを開催



シンポジウムの開催状況 (R7.10.17) 会場内展示ブースの状況 (R7.10.17)
(田んぼダム、スマート農業関連企業)

令和7年度宮城県田んぼダムシンポジウム開催概要

日程：令和7年10月17日(金)

主催：宮城県田んぼダム実証コンソーシアム

開催場所：栗原市若柳総合文化センター

参加人数：308名(市町村、土地改良区、農業者、関係機関等)

講師：国土交通省、新潟大学、(栃木県) 思川西部土地改良区
農事組合法人平形農園、宮城県

(2) 効果検証の実施

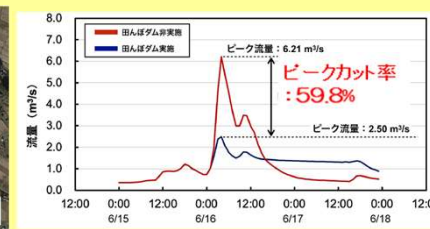
田んぼダムの効果を可視化するために、令和3年度から大崎市内のほ場整備実施地区において、効果検証を実施(宮城県古川農業試験場、新潟大学)



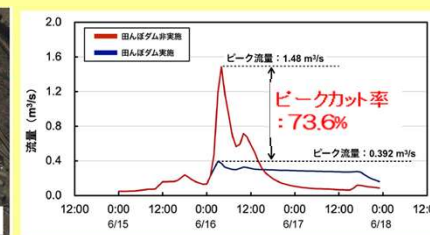
R3~4年度効果検証結果実施エリア
(大崎市千刈江地区)



R5~6年度田んぼダムの効果検証結果(概要)(田尻西部地区)



R5~6年度田んぼダムの効果検証結果(概要)(下野目東部地区)



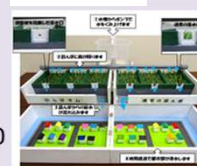
(3) PR動画の作成(R3年作成)

■ 動画タイトル
仕組み丸わかり! 模型で実験
「田んぼダム~普段は田んぼ、時々ダム~」

■ YouTubeで検索

田んぼダム 仕組み

■ 動画URLから QRコード
<https://www.youtube.com/watch?v=UwxhMoxNqX0>



(4) 取組面積の推移

(1)は農地整備事業分



(5) 現状と今後の課題

現状:
田んぼダムの認知度向上や推進体制を強化を図ったが、市町村・改良区の加入率は約8割である。山間部の独立した水系を持つ市町の加入率が低いことが課題。

課題:

- ・更なる取組面積拡大
- ・コンソーシアム参画率の向上
- ・持続的な取組
- ・流域一体となった取組



② 圏域ごとのワーキンググループの実施

- ・県内7圏域に設置したワーキンググループでは定期的に勉強会を実施
- ・ほ場整備実施地区(計画地区)の推進委員会においても普及活動
- ・田んぼダムキャラバンの開催



ワーキンググループ実施状況

③ 学校教育との連携(田んぼダム出前講座)

県内の小中学校等を対象に出前講座を開催し、田んぼダムの仕組みや地域の防災について分かりやすく解説



出前講座の実施状況